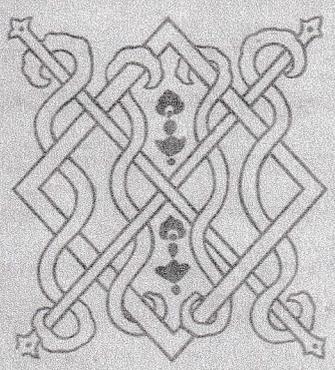


Collection of Songs for  
Primary Schools and Homes.

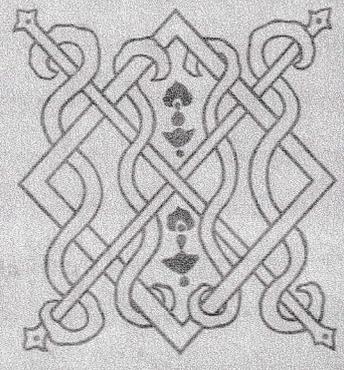


# 童謠唱歌名曲全集

田村虎藏・福井直秋・小松耕輔・共編



第三卷



東京 京文社 刊行

EDITION · KYOBUNSHA · TOKYO

1929年15月 梅澤 批 2000/01/00 10 15 57

犬童球溪 歌  
山本正夫 曲

想を込めて [♩=72]

1. オモヘバ トキキムカシヨ  
2. ちがにものこそしのばれ

リ アッタノヒートノナガメケン  
て なきひとのみにしはるる

ミレバ コホモアリアリト コジツ  
つきのかがみはくもらねど まなこに

ウツスツキノカゲ  
いとつゆしけし

おちついて、やはらか

1. ツー  
2. おか

ナキカ  
おまど

ウツン  
もーり

四六 神功皇后

田村正臣歌  
藤村虎藏曲

- 一 手弱女ながら 太刀佩きて  
弓矢取らし、み衣は  
天照神の 摩訶の  
神代のことぞ、おもはゆる、
- 二 一船を捨て 沖つ浪  
新羅を指して、うを寄せつ  
これ神なりと 國王は  
畏慄き恐れ 降りけり、
- 三 神の御國の み光を  
海の外遠く 輝かし  
仰がしめしは 足姫  
后の君ぞ 始めなる、

四七 夕やけ

大沼田愛編曲

- 夕日が西に かつむいた  
鳥がなぐらへ かへるころ  
西のみ山で 火がばうく  
鳥が水汲み 目が見えぬ  
森の奥に たのみませう、

四八 山は夕焼

小田島樹人曲

- 山は夕焼 さびしいな  
雞さがしに 出て来たが  
徳に徳が揺れて また揺れて  
山は一面 去の強  
みすは北風 木の葉風、

四九 離れ小島の

北原川信曲

- 離れ小島の 椰子の樹は  
なげに寝ないぞ、よらねぞ  
都の空が 戀しのか  
雪夜のあかりを 夢つてか

五〇 ねむれ椰子の木

河村直則曲

- はなれ小島の 椰子の木は  
あかい月夜に たゞ一人、
- 一 ねむれ椰子の木 月夜には  
南の濱の 浪の音  
その音聞いて ねむれよや、
- 二 ねむれ椰子の木 波間には  
白い島の 夢の唄  
その歌聞いて ねむれよや、
- 三 ねむれ椰子の木 椰子の葉に  
こぼる、光の 露の音  
その音きいて ねむれよや、

五一 九月の歌

中山晋八十歌

- 一 たのしい たのしい 夏休み  
芙蓉の花が もう咲いて  
いつか九月に なりました  
海で暮した 子供等は  
海の磯に 申します  
なまよし 鷗よ さやうなら、
- 二 短い 短い 夏休み  
かな／＼脚が もう痛んで  
いつか九月に なりました  
山で暮した 子供等は  
山の上で 申します  
なまよし 木霊よ さやうなら、

五二 月

大童球儀曲

- 一 思へば遠き 昔より  
数多の人の ながめけん  
見れば今宵も あり／＼と  
故人を喚ぶ 月のかけ、
- 二 千々に物こそ しのばれて

五三 みそらの鏡

清水かつら歌  
田村虎藏曲

- 亡き人のみぞ 暮はる、  
月の鏡は 曇らねど  
まなこに いとど落しけし、
- 一 月がみそらの 鏡なら  
亡き世の 姿を  
うつして見せて くれるでせう、
- 二 あたりもつげず 只一人  
お恋によれば 待連し  
森の真上に 出でが、

五四 月に浮かれて

久保田晋二歌  
木曲

- 一月に浮れて 鳴く虫を  
たづねたつて 行く所に  
涙風が吹く ソウ／＼と、
- 二 鬱鬱の花咲く 吾が里の  
背さ灯の、三つ、五つ  
森をすかして テラ／＼と、
- 三 月に浮れて なく出は  
萩の葉がくれ 草の蔭  
あはれ美しく チョ／＼と

五五 月夜の畑

中野晋平曲

- 一月夜の畑の 白れんげ  
ほんのり 佇つた人かいな  
ちよ／＼ 小満の音かいな、
- 二月夜の畑の 白れんげ  
そよ／＼ 散るのは風かいな  
うろ／＼ 散るは六かいな
- 三月夜の畑の 白れんげ  
月夜も畑も 夢かいな  
月夜の畑の 白れんげ

五六 運動會

田村虎藏曲

- 一目頭鉦へに 鉦へた力  
見せるは此時 いざ腕だめし  
走りくらなら アラビヤ馬よ  
高飛び躍飛び カンガル何の、
- 二 脚は金銀 磨きをかけて  
フットボールは 天へも届け  
腕は筋金 上りをば込めて、
- 三 勝つも負けるも 勝負はならひ  
かのが余力 盡した所で  
勝てば喝采 負けても拍手  
賞も卑劣な 振舞するな、
- 四 二十世紀の 勤めは多い  
日本男児の 無病の心  
鉦へと鉦を 先づ第一に、

五七 鈴

白鳥晋吉歌  
月曲

- 一 鈴ふる鈴 鈴ふる鈴  
ひろい野原の 萩 桔梗  
人に見えない 春かげの  
小路を踏出 何處へ行く、
- 二 茅の白根の 家を出で  
りん／＼鈴 夢見るは  
いつか甘露の あまの國  
夕日の赤い 遠い國、

五八 白虎隊

田村虎藏曲

- 一 旅の如く 荒れくる  
旅の彈丸 ひき受けて  
命を護り 戦ひし  
三十七の 男少年  
これぞ會津の 落城に  
その名聞えし 白虎隊、
- 二 味方は果てなく 遊多し  
日は暮れ果てなく 雨多し  
はるる勇氣は 環まねど  
疲れし身をば 如何にせん  
傾きし 流るゝ血  
頼朝天皇も 驚きはてぬ、

三 残るは僅かに 十六士

一度後に 立ち歸り  
主君の最後は 會はばと  
飯盛山に 旗を登り  
見れば早くも 城落ちて  
始は天を 焦したり、

六一 秋の山

水木信綱歌  
モットランド民歌  
一 我等の好む 秋來れり  
草鞋踏みしめ 山に登る  
紅葉美しく 峰も谷も

三 腹島子鳥

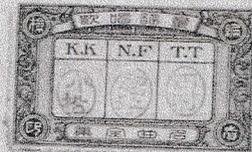
みそらに啼る  
夕暮しばし 野の里の子鳥は  
いかにか待たむ うたごきいつ、  
いかにか待たむ 麗な野の果に、

六四 なさけ

討たれし平家、公違ふはれ  
曉まき 須磨の嵐に  
聞えしはこれか 青葉の音、  
二 更ける夜半に 門を敲き  
わが師に託せし 言の葉あはれ  
今はの暇まで 持ちこたむ

昭和六年十二月廿日印刷  
昭和六年十二月廿日發行

◇預約出版◇ 童話唱歌名曲全集  
第三卷・預約價 金貳圓八拾錢



編纂者 田村 虎藏  
東京市芝區芝八幡町三一

編纂者 福井 直秋  
東京市外杉並町荒井一八八四

編纂者 小松 耕輔  
東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五

發行者 鈴木 瓦  
東京市神田區淡路町二ノ二

印刷者 單式印刷株式會社  
東京市芝區金杉新沼町二

代表者 和田 朋一

發行所

東京市神田區淡路町二ノ二  
發售口座東京八三二六番

京交社

電話神田(30)三三九〇番  
三三九二番